

ということで、時間なくなりましたので、私の質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、長郷泰二君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩とします。再開を2時5分からとします。

午後1時50分休憩

午後2時02分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。

7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。さきに通告をいたしておりました4件について、市長並びに教育長に質問をいたします。

市長、元気ありますか。あと50分ですよ。しっかり頑張りましょう。そして、いい回答が出るように、ひとつよろしくお願いをします。また、期待をしながら質問に入らせていただきます。

まず1点目でございますが、対馬空港の活性化について、滑走路の延長及び施設の整備を、国、県に強く要望すべきだと思いますが、市長の考えを伺います。

御承知のように、対馬空港は昭和50年10月に滑走路1,500メートルにて使用開始され、対馬・福岡間に全日空YS-11型機が就航し、昭和51年8月には長崎線が就航開始され、さらに、昭和58年4月から滑走路延長1,900メートルに延伸され、ジェット機B737、定員126が運行開始され、また、国際線として、KEA（コリアエクスプレスエア）が、平成21年10月から平成25年7月まで運行され、開港後、平成29年3月末現在で1,239万の方が利用されております。

平成27年4月に、時の建設大臣でありました太田国土交通大臣が対馬を視察された折に、施設の改善、航路対策、航空路対策等について、長崎県知事も含めて、市として要望書が提出されておりますが、いまだに先行きが見えない状況だと思います。

昨年4月には、対馬の念願でありました国境離島新法も施行され、航路、空路運賃の低廉化や輸送運賃の補助も施行され、大変よくなってまいりました。

また、韓国からの観光客も右肩上がりです。昨年は36万人の利用があり、また、朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産登録もされ、今後は国内からの観光客を呼び込む必要があります。関東・関西からの直行便も視野に入れて考えなければならないと思います。

また近年、特に朝鮮半島有事の際の韓国内の法人救出の問題も指摘されており、このように昨今の状況の中、対馬空港の活性化は必要不可欠だと思いますが、市長の考えをお伺いいたします。

次に、2点目であります、久田幼稚園跡地の利活用についてであります。

久田幼稚園は、厳原幼稚園に統合され平成26年3月に閉園となり、現在に至っておりますが、現在、久田地区では、久田・白子・堀田3地区でまちづくり協議会を発足し、お船江を核として地域づくりに取り組んでおる地域であります、閉園となった施設の地域包括ケアシステム構築の観点からも、ぜひ、地域の高齢者の方々の憩いの場、あるいはいつでも立ち寄って会話ができるサロンの場に活用できないか、市長にお伺いをいたします。

次に3点目であります、久田小学校校舎内の改修について、教育長にお伺いをします。

久田小学校は、昭和54年に新校舎が建設され、築40年になりますが、校舎の外壁は剥がれ、雨漏りは、校舎、体育館でも見られ、また廊下、教室のところは剥がれ、放送施設の故障等も数えれば切りがないほどであります。

対馬全島の小学校の中でも、施設環境が一番悪い学校だと思っております、なぜ改修ができないのか、教育長にお伺いをいたします。

最後に、お船江周辺整備について市長に伺います。

前回12月議会で質問をいたしました、時間がなくて話が聞けませんでしたので改めて伺いますが、お船江については、保存整備委員会で検討がされ、国指定に向けて整備がされていると思っております、広場の整備をどのような計画をされているのか、また、韓国の方が所有している土地については、どのようになっているのか、またバスの駐車場についてはどのように対応されるのか、今後の整備について市長に伺います。

以上、4点について答弁を願います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の御質問にお答えいたします。

対馬空港のこれまでの経過と現状につきましては、先ほど船越議員のほうから詳細に説明がありましたので省略させていただきます。

対馬空港の滑走路延伸はボーイング737—500の退役がうわさされ始めた平成27年から、後継機の機種選定のことありまして、以来、市議会と一体となって、国、県への要望を続けております。

全日本空輸からは、ボーイング737—500の後継機として、現有保有機種の中から、今、運用されているカナダ・ボンバルディア製の旧400機の打診がっております。

まだ、決定したわけではありませんが、当初導入を予定していた初の国産ジェット機であるMRJの開発の遅れで、納入が予定されていた2017年から2020年東京オリンピックごろになり、納入後、中部地域を中心に運用が始められ、納入機体数も不明で、対馬路線での運用開始は、現在は計画が立てられない状況のようであります。

現行の運用体制では、提供座席数、貨物積載量が減少することから、ボンバルディアの旧400では、6便以上の運行を求めて、全日本空輸に交渉をしております。

滑走路延伸につきましては、全日本空輸の現有機種、先ほど申しました三菱製のMRJも含めた予定機種で、提供座席数、貨物積載量で退役予定のボーイング737-500と同等以上の機種は、必要な滑走路延長がいずれも2,000メートルを超えております。

対馬の将来を考えたとき、少子高齢化で人口減少が進む中で、交流人口の拡大には異論の余地はないと思われまます。日本本土からのさらなる交流拡大のためには、今以上の交通インフラの整備が重要な鍵であり、航空貨物も含めた輸送量拡大には対馬空港の滑走路延伸は避けて通れない課題でありますので、今後も官民一体となった動きが重要と考えております。

今後、滑走路延伸と同様に就航率向上のためには空港設備等のさらなる充実も重要であります。長崎県対馬振興局とも管制が福岡空港に移管される中、対馬空港の拡充、安全対策の向上のため勉強会を開催しており、情報共有を図りつつ、国、県へ、議会と一体となって要望を加速させたいと考えております。

次に、2点目の久田幼稚園跡地の利活用についてでございますけれども、久田地区におかれましては、まちづくり協議会を立ち上げられ、お船江などの地域資源を活用した地域づくりを積極的に推進していただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、久田幼稚園は、昭和55年3月に建設され、平成26年4月、厳原幼稚園に統合されるまで、34年間にわたり行政財産としてその役割を担ってまいりました。

軽量鉄骨づくりであり、補助金適正化法で定める処分制限期間は補助事業完了から40年間とされております。現在、38年が経過し、2年後には同法施行令第14条に記載されている処分制限期間を終了いたしますので、市が自由に転用し、貸与・譲渡等が可能となります。

しかしながら、現段階では教育委員会が行政財産のまま所管しておりますので、高齢者施設にかかわる有償、無償を問わず、第三者に貸与、譲渡等を行うことはできないこととなっておりますが、議員、御提案の久田幼稚園跡地における地域高齢者の方々の憩いの場、サロンの設置につきましては、高齢化が急激に進行する対馬市において、高齢者の皆様が集い交流を図る場、また、多世代との交流を広げる場として、大変意義ある取り組みであると考えております。

対馬市におきましても、いつまでも元気に住みなれた地域で暮らし続けることができるよう、介護予防自主活動グループの活動支援や各種講演会の開催など、介護予防活動に努めているところであり、現在、介護予防自主活動グループとして登録いただいている団体は38団体に及んでおり、スクエアステップなどの健康づくり活動とともに、地域コミュニティの醸成に努められております。

また、市におきましては、わがまち元気創出支援事業による地域サロンの整備助成や介護予防

自主活動助成制度を設け、地域の方々の自主的なコミュニティーの醸成活動や介護予防活動の支援を行っているところでございます。

4点目のお船江跡の整備につきましてでございますけれども、このことにつきましては、所有者の意向や総合保全検討委員会の指導を受けながら、教育委員会のほうで進めていることを、昨年12月の定例議会で会派代表質問の折、教育長が説明したとおりであります。

今回の質問は、周辺の指定地外を含めたお船江整備に関する質問ということで、これにつきましても昨年3月定例会の折、議員から、指定地对岸の広場の整備、駐車場の整備等について御意見をいただいたところであります。

この件につきましては、近隣地に韓国資本の民宿建設計画があり、史跡及び周辺の景観への影響が懸念されることから、また、すばらしい観光資源の活用の面から、市全体の大きな取り組みとして捉え、関係する複数の部局による横断的な協議を行っており、現在、事業実施に向けた整備方針の検討を進めているところであります。

大きな方向性として、お船江跡及びその周辺一帯は、都市計画区域の指定内にあることから都市施設と位置づけ、公園化での事業組み立てができないか検討をしているところであります。

その整備手法について、都市公園などを含め協議しておりますが、都市計画決定事業化については諸条件があり、現在、県当局と鋭意協議を進めているところでございます。

また、お船江周辺の土地につきましても、関係する地権者の方へ整備の必要性について理解を求めるとともに、事業用地として先行して取得できる有利な制度がないか、関係機関と協議を進めているところでございます。

史跡指定地内では、文化財保護法上の縛りがありますので、指定地の拡充や国指定への申請とあわせ、教育委員会による史跡整備事業を中心とした整備を進めてまいりたいと考えております。

周辺につきましては、一帯の公有地化や駐車スペースの確保等について、どの事業で確保、対応するのかということを検討を進め、事業着手できるように努めてまいりたいというふうに考えております。

お船江跡につきましては、久田3地区で策定されました地域づくり計画におきましても、地域の宝と位置づけられ、久田地区まちづくり協議会を中心に、地域ぐるみで積極的にお船江の保全、活用に取り組みされており、地区の方々も非常に心配されている事案でありますので、その意もくみながら、整備の実施に向け取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 3点目の久田小学校の改修ができないのはなぜかという質問についてでございますが、市内には33校もの小中学校があります。加えて、学校の多くは昭和40年代、

50年代に建築されており、老朽化が進み、いずれも修理修繕が必要な学校ばかりでございます。

各学校からは、毎年度多くの修理修繕の要望が出されますが、限られた予算の中での対応となり、また、大きな予算を伴う老朽化施設の整備には苦慮をしているところであります。

議員、御指摘の久田小学校の改修につきましても毎年度実施しており、今年度は大きな予算をかけたグラウンド改修事業や体育館屋根補修、校舎屋上防水シート補修など8件を実施をしたところでございます。

また、教室、廊下、床張りかえ事業につきましては、設計監理委託料と工事請負費の維持補修工事を合わせまして590万円余りを予算計上し、平成30年度、来年度に改修を実施することとしております。

全市的な小中学校の改修につきましては、危険性や緊急性を考慮し、中長期的に優先順位を決め、学校間で不均衡が生じないように、順次対応しているところでございますので、御理解いただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） まず、対馬空港の滑走路の延長について、市長、伺いますが、市長も申されましたように今年4月1日から管制官がいなくなります。福岡の空港でその電波による誘導をして、飛行機が発着するというような状況になろうかと思うんですが、やはり、一番肝心なのは安全ですよね。安全をしっかりと確保せないかんとというのがあろうかと思うんです。

国のほうでは、やはりそれが確保できるということで、そういうふうなふむけられたとは思いますが、しかし、我々島民とすると、やっぱりここは山の上にある飛行機で西風が強い、そういう中で本当に大丈夫かというような懸念もあります。

それと、もう一つはこの離島の中で石垣、宮古、そういうところについては、みんな2,000メートルなんですね、滑走路は。五島もそうです。そういうところは、みんな2,000メートル、石垣、宮古、奄美、種子島、それから五島ですね、こういうところは、みんな滑走路は2,000メートル、これで、やはりそういう機器もしっかりついた中で、こういうところであるとA320とかB3—800あたりが離着陸できるんです。

そういうことは、ほかの離島ではそういうのができるのに、どうして対馬は1,900かということもあろうかと思うんです。

やっぱりこれは、先ほども言いましたが、世界ユネスコ遺産に登録をされた——対馬がです——あるいは、国境離島新法によって対馬というもの、ある程度売り出しはしてきました。そういうところを踏んでくると、やはり韓国人が36万人も来るといふような島というのは、どういふ島だろうというようなことが、関西・関東のほうの人たちは思うところがあるかと思

うんです。

そういうことも含めると、これからの問題は、やはり国内からの観光客をいかに引っ張ってくるかということだろうと思うんです。

国境離島新法の中でも、この離島の島民は運賃の低廉化がなっていますが、しかし、国内の方たちにはそれがききません。それをするというので、今、代議士も一生懸命やってくれととは思いますが、しかし、それが実現してこないと、やはりどうしてもそのネックが運賃なんです。そこら辺は、やっぱりしっかり解決していく必要があると思うんです。

なぜ2,000メートルかといいますと、やはり先ほども言いましたが、韓国は今、ちょっと韓国のほうも北朝鮮のほうも、話が、今、進んでいますのでどうなるかわかりませんが、これは、まだまだわかりません。

しかし、国内の報道によりますと、韓国には邦人がやはり3万8,000人ぐらいおる。それと観光客を入れると6万8,000人ぐらいおる、そういう状況の中で、救出するにはどうするかということになりますと、陸路で来て対馬に一回渡して、それから避難させるというような構想も新聞に出ていました。

やはり、そういうことも含めて考えますと、やっぱり航空路というのは、大きな飛行機が飛ぶ必要があるかと思うんです。それには、やはり2,000メートルはないとLCCの飛行機も飛びませんよ。

今から先のことを考えると、どうしてもこの2,000メートルというのは必要だろうと思いますので、そこら辺をもう少し国境離島推進特別委員会というものもありますね、こういうことも含めた中で、やはりそこら辺もしっかり議会とも協議をしていながら、国、県にしっかりと要望していくということも必要だろうと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も全く同感でございます。まず、遠隔管制の関係で、このことにつきましては、どうしても国の行革、そういった関係でされることはこちらがなかなか止められませんけど、ただ、先ほど船越議員がおっしゃられたように、安全性だけは、必ずこれは確保してくださいということで、私も強く申し入れをしているところでございます。

そしてまた、この北朝鮮関係のことで邦人関係を対馬経由で避難をさせるといったような報道があっておりますけれども、私もこのことにつきまして、2月の19日に内閣官房の事態室のほうへ出向きました。その中で、この邦人避難について、対馬市として与えていただける情報があれば、ちょっと情報をくださいというような話をしたんですけど、今、現時点では詳しい情報は与えられないというようなお話でございましたけども。

そのような中で、これも先ほど、船越議員がおっしゃられたように、今現在は、韓国からは船

で対馬を経由して本土に運ぶというような報道がなされましたけれども、ただ、船だけでは恐らく比田勝港、厳原港に自衛隊の艦船も着きませんよと、そういう中では、対馬空港に一旦着陸をする必要もあるんじゃないですかと、そういう中で、対馬空港は1,900メートルですから、もう少し滑走路の延長も必要ですよという話も、直接の部署じゃないかもしれませんが、そういう話もさせていただいたところでございます。

そしてまた、最後にこの辺を、やはり県の振興局、そしてそういう関係の方々と、今現在、どのようにしてこの滑走路の延長を進めるかについて勉強会を進めているところでございます。

このまた勉強会でいろいろと検討した結果をもって、議会の皆様と要望等にも出向きたいというふうに考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 県のほうも、今年度の予算で、要は各空港の管理を委託したいと、その予算も今年度つけたということなんです。

管制塔は人間配置がいなくなり、そして県の職員も、そこを管理を委託するということになってしまいますと、全くこの飛行場というの、今までの飛行場のシステムというのと全く変わってくるんです。

だから、そういうところにやはりもう少し力を入れていただかんと、本当にこれで大丈夫かと。特に対馬の場合には、先ほども言いましたが、それで滑走路が今1,900ですけれども、大船越のほうから入るときには電波で入られるやつがあるんです。

ところが、竹敷のほうから入るときには、それがありません。目視で入ってこないかん。そういうことも、不備な面もまだまだあるんです。今、1,900メートルにしても。ところが竹敷のほうからといいますと、この南風の風が吹いたときには、どうしても竹敷のほうから入ってこないかんです。そういうときには、着陸できんわけですよ。

そういう不便さもありますし、また就航率の面もありますし、五島空港と対馬空港との差といいますと、やはり五島と対馬、それから福岡ですね、この間を搭乗者数にしてみますと、半分、約倍ですよ、対馬は。五島空港としますと、利用者が。

それぐらいに、対馬はまだまだ乗降客が多いんです。多いのに、要は五島空港よりも質が低いということなんです。

だから、これはどうしても市長、有人国境離島法関連事業の中に入れていただいて、力強く、国、県に要望していくべきだろうと思いますので、よろしく願いしておきます。

次に、2点目に行きます。

久田幼稚園の、今、前向きな市長の答弁がありましたけれども、やはり、ここは今一番地域包括ケアシステム構築事業というのが一番メインに持ってきておるはずなんです。

ところが、この言葉というのは何年も前から聞いて、そして事業を進めていきますよ、進めていきますよといいながら、予算も上がっておきながら一向に先が見えません。

特に、今、桑原先生が入っていただいて、統括官として入っていただいて在宅医療とか地域包括ケアに取り組んでいただいておりますが、やはりこれは、基本はこういうところにそういうサロンとか、その憩いの場とか、そういう施設をしっかりとつくってやって、そこにまず皆さんに寄っていただいて、通常何げもない話をするによったり、お茶を飲んだりすることによって、それは熟成されていくんじゃないかなと思うんです。それが基本じゃないかなと思うんです。

ただ単に講習会を開いて、その地域包括ケアとはこんなものですよということを、どこに行っ
てしゃべったって、それは定着しませんよ、そういうのは。

だから、私はいい機会だと思いますんで、久田地区の高齢者というのは、白子・久田・堀田合
わせて385人おられるんです。これ、西里まで入れたら400人超しますよ。そうすると、あ
あいう地域の一周まりのところにそんだけの高齢者の方がおるわけですから、一番やりやすいは
ずだと思うんです。飛び飛びおるんじゃない。バスも何も通わさんでもいいんですよ。

それぐらいに固まったところにそれだけの高齢者の方たちがおるということになれば、そこで
やはり実践的なこともやる必要があろうかと思うんです。

今年度予算に上がっていますけれども、地域生活コーディネーター配置事業というのがありま
すね。ここの中でも、年をとっても住みなれた地域で自分らしい生活を続けるためには、医療介
護のほかには地域における助け合いが必要不可欠です。助け合いができる体制づくりや人材発掘等
を行うために、対馬市内に6名のコーディネーターを配置し福祉事業などを活用しながら高齢者
が生活しやすい地域づくりを目指しますと、こうあるんです。

確かに文言はいいんです。いいことが書いてある。ところが、これが実践できますかというこ
となんです。実践せなんだら絵に描いた餅なんです。それでは事業というのは、全く進んでいき
ませんよ。だから、それを実践してやるような方策を考えてくださいということを私は言いたい。
よろしく願いしておきます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどもこのことにつきましては答弁させていただきましたように、ま
ず、地域の3地区の皆さんがそのようなことで、自分たちの地域のことは自分たちでやろうとい
うそのお気持ちに従って、市といたしましても一生懸命バックアップはさせていただきたいとい
うふうに思っておりますので、どうかよろしく願いしたいと思います。

そしてまた、先ほどの地域コーディネーター等については、やはり、皆様から本当に親しまれ
るようなそういった制度を実現させてまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 久田幼稚園の、あと2年残っておると言いましたね。これは、先にそこら辺は話ができるんじゃないかなと思うんですけどね。40年というその期間は決まっていますが、38年来とって、もう今廃校になっておるわけですから、そこら辺の話はできると思います。

地域に何もかんも、あなたたちでやってください、やってくださいじゃなしに、やはり、コーディネーターというのがあるのであれば、コーディネーターを1人配置をして、その中で、やっぱりその地域のお年寄り、高齢者の方たち、そういう人たちの話も聞いてやって、相談も受けてやって、そういうコミュニティー的なものが必要だろうと私は思うんです。それが一番安心するんです、高齢者にとっては。

地域みんなが集まって雑談するの、それもいいですよ。しかし、自分が不安に思うておることを相談できる人間、そういうコーディネーターというの、そこに1人配置することによって、全く変わってくるんです。

そういうことができるような施設を必ずつくって、6つつくるって書いてありますから、6つつくるんでしょう。しかし、なかなかこれは、6つつくるといっても、さっと行きませんよ。私はそう思います。対馬の中に6つつくると言うてますけど、ただども、なかなかそういう地域と固まったところ。ぽつんぽつんと、四、五十軒のところ、1つつくってでも、これは規模が小さいですね。やはり大きなところでは大きなところなりのやり方があるかと思うんです。

そこら辺もぜひ含めて、それが実現できるような、モデル的な地域になるような、そういうこともひとつ考えていただいて、ここで実践をしてやって、よくなってきたと、これやったら対馬全島に広げようと、そういうふうなことができるようなことも考えて進めていただきたいなど、このように思います。よろしくお願いします。

もういいですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私の先ほどの答弁の中で適化法の関係にちょっと触れましたので、あと2年は入れんじやないのかなというふうにお考えになったのかなと思いますけれども、これを、今、行政財産を普通財産に移管すれば問題ないというふうな考えをしておりますので、地域の皆様が、ぜひともこれをやろうということであれば、そういうふうな方向性を向けていきたいというふうにお考えしております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 次に3点目の久田小学校の件ですけれども、教育長はこの久田小学校の生徒というのは、現在187名おるんです。対馬の中では3番目に大きいんです。鶏鳴、巖原、久田なんです。

来年は200名になろうかというような話も聞いておりますけども、やはり市長が言いますように、子供は対馬の宝だというようなことも、市長も言ってありますよね。だから、子供たちが、いい環境で勉強ができて、それをやっていくのは、やはり教育委員会の仕事だろうと、もう一つは行政として、それはしっかりと支えていくのが行政の仕事だろうと、私はそう思います。

それを、予算がありませんからできませんよと、そして、そんなところはたくさんありますから、順番おくりでなかなかできませんよと、それは皆さんは机上の上で計算しますから、それはいいでしょう。しかし、現実的におるのは子供たちなんです。子供たちが、そういうところで苦勞しておるんです。そういうところを、もう少ししっかりとわかっていた中で、対応は考えていただきたいと思うんです。

市長にお伺いしますけど、市長は予算ないんですか。予算はありませんか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 濟いません、予算がないということではないということで、これまでも、29年度もたしか久田小学校のほうは5,700万程度の予算をつけていたというふうに思っております。できる限り予算は配分はしたいというふうには思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） わざと予算があるかないか聞いたんですが、要は予算がないからやれませんかということじゃないんですね。ここで、やっぱり久田小学校の中を、どういうところが傷んでおるのかというの、私は行って調べてきましたよ。これは、大変すごいですよ、ここは悪いところが多過ぎますよ。

しかしその前に、一つ教育長、市長にはお礼を言うとかないかんと思うんですが、今回は去年、昨年度は事業費をつぎ込んでいただいて、要は運動場がきれいになりました。確かに子供たちも喜んでおりますし、父兄も喜んでおります。ありがとうございます。改めてお礼は言うとききます。しかしながら、それはそれ、これはこれです。

教育長、ポンプ室があるんです、傾いているんです、こんな。何で傾いているかというたら、地盤沈下しているんです。それは10年もかかってほったまんまです。

今、教育長は雨漏りがしよるから、体育館の雨漏りは直したと言っていますけども、まだ漏っていますよ。校舎の雨漏りもまだしています。ですね。廊下もまだそのままです。外装板も剥がれたまんまです、外壁も。

確かに大きな金は要るかもわかりません。しかし、今年度も恐らく40億ぐらいはついとると思うんですが、教育費は、だけでも、要るところには要るんです。そこら辺はトップとして、行政のほうと財政のほうとしっかり話をさせていただいて、市長もないということはないと言っていますよ。どっかにへそくりがあるかもわかりませんから、それを引っ張り出してきて、もう少し

子供たちが安心して勉強ができる環境づくりというのは必要だろうと思います。

それから、もう一つ言いますが、学校のチャイムが鳴るんです。時計があって、それに連動しておるんです、マイクが。チャイムの放送もきかないんです。チャイムですね。今、子供たちが何を言っているかといいますと、5時15分前、今、もう6時15分前になりましたけども、放送するんです。6時になりますから早く帰りましょうって。そのときに言う言葉が、自分たちの対馬を大事にしましょうという放送をやっているんです。

子供たちがけなげじゃないですか、こういうことを言うということは、そういう教育を教育長たちがしておるんでしょう。しとるからそういうことを言うんでしょう。本当ですか。

もう一つは、お船江の広場があります。広場がありますが、要は先月の28日に、2月の28日に、昼から久田小学校の5年生、6年生がお船江の中の清掃をやると、自分たちで。そういうふうなことも考えてやってくれるんです。それがまた放送するんです。子供がですよ。私たちがこうやってやりますから、地域の人の手があいた人は一緒に手伝ってくださいって。

うれしいやないですか、こういうことを言う子供がおる子供がおるということは、そういう子供が育っておる学校なんです。もう少し身を入れて、しっかり整備をしてくださいよ。どうですか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 船越議員がおっしゃられることは、私も十分わかります。先ほども言いましたように、久田小学校だけではなくて、いろんな学校にそういう状況がありますので、これは子供たちが1日の大半を過ごす学校ですので、安全安心な環境づくりというのが、私たちの大きな仕事でもありますので、今後、いろんな学校の現場の確認をしながら、やはり緊急性、安全性、そういうもので優先順位をつけながら対応していきたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） そこを見て回って、優先順位をつけて、それで一つずつやっていきますということでは間に合いません。間に合いません。

なぜかといいますと、地盤沈下してでこぼこになっておるんです。そういうところもほたつとって、子供がそこでひっくりかけて転んで、けがでもして、親御さんから何と言われますか。

そういうことも含めた中で、計画的に少しずつやっていきたいと思いますという状況であればまだいいんですよ。地盤沈下をして、それでポンプ室は傾いておる、コンクリートですよ、コンクリートのやつが傾いておるんですよ。それでもほたつとるんですから、それはよくない。

もう少し、教育長、教育部長は、恐らく全島回って学校を見てきてあると思うんですけど、やっぱりそういうところは、子供たちは子供たちで、やっぱり一生懸命勉強もしてやっていって、そういうことも地域でもやるわけですから、そういうことも含めた中で、この行政がしっかりと

寄り添って、子供たち頑張ってくれよと、頑張れよというようなことをやるような必要があると私は思うんですけど、なぜそれができないかな。

結局は予算がないからできんということでしょう。予算がないから。ですね。しかしやっぱりこれは、市長、起債でも上げて、全島的なやつをしっかりと見ていただいて起債でも上げて、やっぱりしかるべきことはやるべきだと私は思いますけど。

市長の施政方針の中でも、子供は対馬の将来を担う大切な宝です、書いてあるんです。また、学校施設の環境整備についても、児童生徒が安全で安心して快適な学校生活がおくることができるようになりますと書いてあるんです。これは文章だけできれいごとを言うとするんじゃないと、私は思うんです。

市長の気持ちでこれは書いて、やるぞという気持ちで書いたと思うんです。ですね。ならば、そのようにできるように、しっかりやっていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに私は「常々子供は対馬の宝である」というふうに思っておりますし、そういう子供たちには、学校では特に安心・安全な施設の中で勉強してほしいというふうに考えております。

そういう意味からもまた、できる限りの予算を配分できるように努力してまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 教育長、市長はできるだけ予算を配分すると言ってますよ。

あの、助役がとめんやったらですね、予算は通ると思うんですよ。だからどうも助役んとこで、助役じゃなく、副市長んとこでとまりよっちゃないかなと私思うんですけどね。

副市長、そういうことがないように、ひとつよろしくお願いします。

次に、お船江の件に移りますが、やはりずっとこのお船江のことについては、私も市長、それから教育長にお願いはし、いろんな意見も出させていただきました。

しかしながら、大体こう大詰めに少し来よるのかなというような気はいたします、ですね。で、やっぱり一番懸念するのは、外国人から買われるというのが一番懸念するところなんです。で、それ前にやっぱり手はしっかり打たないかんと思いますし、それからお船江の中については、国指定に向けて今、教育委員会のほうで検討委員会をつくって、それに向けてやっているということですから、それはそれでやっていただいて。

それから、その広場の件については、やはりその都市計画もあるでしょう。いろんなことを含めた中で、どのようにすればこれを核として、やっぱりその巖原のその中の緑地地域として、活用ができるかということもしっかりこう考えていただいて、できるだけ早く、それがなるように

力を入れていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） はい。例の韓国の方が民宿を建てられてる計画の件につきましては、その中間に立たれてあります不動産業者さんのほうともお話をいたしまして、市のほうで何とか買い戻す、今話を進めている最中でございます。

そして、そのほかの民間の用地の先行取得につきましても、やはり税の関係が大きく左右してまいりますので、特別租税措置の関係で減税ができるように今、関係部署との打ち合わせ等進めるようにしている最中でございますので、このことが解決すれば、早いうちに用地の先行取得をしたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） できるところからこう手をつけていきたいということなんですけどね、やはりどっかに手をつけんとですね、いつまでもこう手をつけんやったら、まだかまだかなくなってしまふんです。だから、去年からその財政その税制面のことがあるからという話は聞いておりますけども、なかなか先にずらんなという気持ちもします。

しかし、そういうのはやっぱり専門ですから、業者のほうは、どういうところにどうやればどうやるちということはわかるはずなんですから、そこら辺もひとつよくよく考えていただいて、早急にそれができるように、一つずつ手をつけていってください。そうすると進んできよるなというのがわかりますのでね。

それと、もう1つは駐車場の件。この件もしっかりと用地のほうは、地主さんのほうも了解していただいていますんでね。だから、そこら辺も含めた中で、ここをどういうふうにしていけばいいなということも、観光商工部長はそこら辺の事情はよくしてあると思いますので、ひとつよろしく願いをしておきます。

終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでございました。

午後2時53分散会
